

令和3年6月29日

発行者 栃木県養護教育研究会

会長 田代 哲郎

編集者 栃木県養護教育研究会事務局

「あいさつ」



栃木県養護教育研究会

会長 田代 哲郎

今年度も引き続き会長職を仰せつかりました。よろしくお願い致します。昨年度は新型コロナウイルスによる感染症拡大防止の観点から、本会の大きな事業は、ほぼ実施することができませんでした。会長として、何もお役に立てていない状況であり、大変心苦しく思っております。その新型コロナウイルスは、今回の波が収束しつつあるようです。ワクチンの接種回数もペースが加速するなど、すこし明るい兆しが見えてきましたが、感染力、致死率共に高いとの研究結果が報告されている変異株、特にインド型の変異株の増加が気になるところです。イギリスでは、この変異株による感染者が急増しているらしく、新型コロナ規制の最終段階の緩和を4週間延期したという報道もあります。本誌が発行される6月末には、東京オリンピック・パラリンピックの開会まで1か月を切っていますが、今後どのような展開になっていくのか、とても心配です。

養護教諭の先生方は、学校現場において大変な一年を過ごされたことと思います。児童生徒や教職員への感染予防対策の指導、消毒液の確保、一時品薄となり手に入れるのに大変な御苦労があったことと思います。そして、特に児童生徒や教職員に感染者が出た学校は大変だったことでしょう。本校も昨年の夏休み明けとこの5月に、生徒がそれぞれ一人ずつ感染しました。一人目の時は、保健所とのやりとりが深夜まで続き、翌日にPCR検査を受ける生徒や教職員の判別や連絡、名簿の作成に多くの時間を費やしました。幸い他の生徒や教職員への感染はありませんでしたのでほっとしましたが、保護者への連絡や事後の生徒指導も気を遣うところでした。二人目の5月の時は、昨年の経験を活かし、スムーズに対応できました。しかし、他の生徒に濃厚接触者を出してしまったことが悔やまれます。

経験をしたからこそ、その大変さがよく分かりますが、現在、どこの学校でも、いつ児童生徒が感染してもおかしくないような状況です。引き続き感染防止対策を実施しながら、緊急時の組織体制を再確認し、シミュレーションしておくことも大切だと思います。

さて、年度も改まり、3か月が過ぎようとしています。異動された先生も継続の先生も各種検診が軌道に乗ってきた頃でしょうか。また、新規採用の先生方は、学校の忙しさには慣れましたか。どんなに忙しくても、新採でも、目の前の子供たちにとっては、あなたが養護教諭です。頑張ってください。ただ、困ったとき、悩んだときは、一人で抱え込まずに同僚、近隣の学校の養護教諭などに相談しましょう。本会の刊行物にも解決のヒントが載っています。是非参考にしてください。

コロナ禍における集会の持ち方もある程度確立されてきましたので、本年度こそは、皆様のお役に立てる研修や会合をできる限り実施していきたいと考えています。今後も、児童生徒を取り巻く社会情勢は刻々と変化し、多様な健康課題が新たに生じていくものと思われますが、皆さんのスキルアップに寄与できる会となりますよう、御協力をお願い申し上げ、あいさつといたします。

「文部科学大臣優秀教職員表彰」を受賞して



宇都宮大学共同教育学部附属小学校
米山 久美子

栃木県養護教育研究会、会員として日頃より様々な場面で支えていただきありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会全体、学校全体が感染症と向き合い、対応に追われる一年でした。皆様、養護教諭として奔走された日々かと思えます。「♪夜明けの来ない朝はないさ、あなたがポツリ言う♪」瑠璃色の地球という曲の一節が胸に沁みます。感染症との闘いという長いマラソンも、折り返しを過ぎていると信じたい心持ちです。

さて、この度、文部科学大臣優秀教職員表彰という身に余る賞を頂戴し、自分自身が一番驚いています。例年は、東京大学の安田講堂にて行われる授賞式との事ですが、東京都の緊急事態宣言を受け、文部科学省の方々のご配慮、ご苦勞の末、リモート授賞式となりました。

私は、養護教諭という仕事に誇りを持っています。しかし、私が養護教諭になった当初、養護教諭の知名度は低く、「保健室の先生」と言わなければ認知されない、そんな時代でした。

初任は県北で、那須の大地のように懐深い養護教諭の先輩や同期に恵まれました。数多くの失敗も寛容な時代に育てていただきました。結婚と同時に宇都宮へ。偶然にも義姉が養護教諭であったのには強い運と縁を感じずにはいられませんでした。

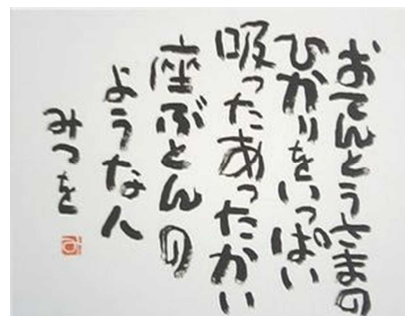
宇都宮にて大規模校 10 年、中規模校 7 年勤務、私生活では 3 人の子を授かりました。育児期と同時に家族の介護が重なり、ワークライフバランスはいずれの比重も重く、常に綱渡りの状態でした。それでも仕事を辞めたいと思わなかったのが不思議です。否、仕事や支えてくれる人がいたからこそ、乗り越えられたのかもしれませんが。仕事と生活の両立は、弱虫で根性の無い私をほんの少し強くしてくれました。

更なる試練は、宇大附属小への着任。附属小の使命は「研究」と「教育実習」。非力な自分に何ができるかを問いながら、今に至ります。附属小の子どもとその保護者は学ぶことに熱心であり、そこに集う教職員も研鑽を積んでいます。若い頃は、子どもを助けるのが私の役目！と正義を振りかざすタイプの私でしたが、今は、子ども、子どもを支える保護者、教職員、学生、皆をサポートすることを心掛け日々の仕事をしています。

宇都宮大学から附属小に来る実習生は年間 100 人を超えます。学生の傾向として、「子どもの頃保健室によく行くタイプだった」のは 7 % 程度。保健室や養護教諭の職務については自身の経験からしかイメージを持ちにくいのが実際です。学生自身が子どもの頃、養護教諭と関わりが薄くとも、教員になったら養護教諭との連携は必須です。教職を目指す大学生に、保健室の機能や養護教諭の役割と連携について少しでも理解してほしい、大学での講義時間をいただき、宇大附属学校園の養護教諭のチームで講話をするようになりました。教員として現場に出た後自分自身が潰れぬよう、養護教諭や他の教職員との関係づくりを大切にしよう伝えています。

人生の半分、四半世紀を養護教諭として勤めてこられたのは養護教諭の仲間達、沢山の方々に支えていただいたおかげです。このような賞をいただいた今、今後自分に何ができるか、自分の役割を問い直す良い機会となりました。

最後に、初任時からの私の理想の養護教諭像を紹介します。
 本県足利市出身、書家、相田みつを氏の書「おてんとうさまの
 ひかりをいっぱい吸ったあったかい座布団のような人」です。
 曇り空で、ペしゃんこ座布団の日もあります、保健室に行く
 とホッと安らぎ、ふっと微笑み、ぐっと力が湧いてくる。
 そんな場所、そんな人でありたいと思っています。



全国健康づくり推進学校表彰（優秀校）を 受賞して

小山市立小山城南中学校 橋本 牧子
 （元：下野市立南河内第二中学校）

栃木県養護教育研究会の皆様には日頃より大変お世話になり、心より感謝申し上げます。本校は、令和元年度栃木県健康推進学校表彰優秀賞、令和2年度は最優秀賞、全国健康づくり推進学校表彰で優秀賞をいただくことができました。令和元年度、「栃木県がん教育総合支援事業（文部科学省委託事業）」のモデル校として実践させていただきました。栃木県からの指定事業内容のほかに、教職員で協議し、10・11月を「がん教育月間」とし、「がん教育月間」に重点的に「がん」について学べるよう、各校務分掌主任が中心となり、学校保健年間計画の見直しを行い、生徒が主体的に「がん」について学ぶ事ができる活動も行うこととしました。

○「がん教育月間」の主な活動内容

①保健体育科の授業	・「健康な生活と病気の予防」
②道徳科の授業	・命の尊さやがんに関する内容（全学年）
③がんに関わる講話	・がん研究者、がん専門医、がん経験者からの講話
④生徒会活動	・学校祭で、がんに関する展示やクイズコーナーの設置 ・生徒集会で、3年生が授業で学んだ事の発表とインタビュー
⑤学校保健給食委員会	・生徒会保健専門委員会によるがん教育についての取組発表 ・学校医や学校薬剤師から、がん予防や治療についての講話
⑥学校給食	・「がん予防によい食材」「食べ方」をテーマにした「がん予防献立」
⑦学校図書館教育	・「がんに関する図書の紹介コーナー」の設置
⑧各種たよりでの啓発	・学校だより、保健だより、給食だより等でがん教育やがん予防に関する記事の掲載



実践後の生徒アンケートで、「がんの学習は、健康な生活を送るために必要だ」との問いに、約79%の生徒が「そう思う」、約20%の生徒が「どちらかと言えばそう思う」との回答が得られました。がん教育は始まったばかりで試行錯誤しながらの取組です。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講演会や集会を実施せず、日常の教育活動にがん教育をプラスして取り組みました。家族をがんで亡くしたり、身近に闘病中の人がある生徒がいたりする場合は、家庭と連携を図りながら、教職員全員で配慮とフォローを検討する必要があります。今後もがん教育を通して、自他の健康と命の大切さについて主体的に考える生徒の育成を目指して取り組んでいきたいと思っています。

全国養護教諭連絡協議会研究協議会報告

栃木県立真岡北陵高等学校 村田 こずえ

全国養護教諭連絡協議会第26回研究協議会の開催に当たり、今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため動画視聴形態での開催となりました。WEB開催となり、今までとは違った研修の形になりましたが、全国から多くの方が参加できるようになったと思います。私も初めて参加しましたが、じっくりと動画を視聴することができ、とても有意義な研修となりました。

今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、オンラインの研修が増えましたが、好きな時間に好きな場所で自由に研修を受けられ、遠い場所で開催される研修会に移動せず参加できるというメリットを実感することができました。好きなお茶を飲みながら、松崎先生のお話を拝聴できるということは、オンライン研修の特権です。現在も引き続き取り組んでいく新型コロナウイルス感染症対策も含め、配信期間中は何度も動画を再生できたため詳しく復習することもでき、改めて毎日の執務について見直すよい機会となりました。

基調講演 「学校保健の課題とその対応」

文部科学省初等中等教育局

健康教育・食育課 健康教育調査官 松崎 美枝 先生

①学校における感染症対策の在り方～新型コロナウイルス感染症の対応～ ②学校におけるアレルギー疾患に対する取組～学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン～という2本立ての内容でした。

新型コロナウイルスについては、文部科学省から出された「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～」（2020.12.3 Ver.5）の主な改訂箇所を中心に、感染症対策の基本となるところをわかりやすく説明してくださいました。

新型コロナウイルスが国内でも発生し流行が広まってから、学校生活やふだんの生活全般で感染症予防を取り入れた新しい生活様式に変化しました。その基本となるものは、やはり「感染源を絶つ・感染経路を絶つ・抵抗力を高める」ことなのだと改めて実感しています。初めは未知で対応に不安があったウイルスですが、感染状況や現状を分析しウイルスを正しく理解することで流行の拡大を可能な限り減らしていくことができると思います。今後も新しい情報を敏感にキャッチし、仲間と情報共有しながら学校全体で対応していきたいと改めて感じました。

アレルギー疾患に対する取り組みについては、ガイドライン及び「学校生活管理指導表」の改定のポイントについての説明と校内全体での研修の必要性についてお話がありました。エピペンが処方されている子どもたちが増えているため、学校でも校内研修等を開き、教職員がアレルギー疾患やアナフィラキシーについて正しい知識を持ち、緊急時に対応できるようにしたいと思います。

フォーラム 「連携・共働を高め健康課題解決を目指した取組を通して」

初めに、コーディネーターの戸部秀之先生から、新型コロナウイルス感染症に対応する私たちへの労いの言葉をいただきました。そして、これほどまでに科学技術が進んだ現在でさえ、未知の感染症に立ち向かうために私たちが持っている最大の武器は、子供たちが健康教育で学んでいる「手洗い」「密の回避」「咳エチケット」「規則正しい生活習慣」などの一人一人の健康行動なのだというお話があり、養護教諭の仕事の重要性を改めて感じました。

シンポジウムに先立ち、子供たちの課題解決・改善に向けて取り組まれた先生方の実践発表がありました。

【小学校】「子供の自己管理能力を育む保健教育の工夫」

毎月行っている発育測定に合わせ、子供たちの健康課題に沿った指導を行った。そこで子供たちが学習したことを実践化するための期間として「いきいき大作戦」を設定し、学校・PTAが連携して実施した。

【中学校】「カリキュラム・マネジメント表を活用した教職員との共働」

養護教諭が中心となって作成した保健教育におけるカリキュラム・マネジメント表を活用して、保健体育科教諭や学級担任と共に授業を行った。また、地域の小学校と共にメディアコントロールデーを実施した。

【高等学校】「スマホ利用について生徒と一緒に考える取組」

生徒が自らスマホの利用をコントロールする必要を感じたため、学校医、教職員、近隣の養護教諭の協力を得ながら「スマホチェックシート」を作成して、保健室来室者に実施した。その結果は、健康相談や学校保健委員会の資料等として活用した。

【支援学校】「学校保健活動を教育活動全体に浸透させるために」

個別の指導計画作成に関わる検討会に全職員が参加することで、一人一人に応じた課題や成果を共有した。事例をもとに、養護教諭が個別の指導計画作成や評価にどのように関わったのか、具体的に紹介された。

今回はWEB開催のため、4名のシンポジストがお互いの発表をさらに掘り下げる質問をしたり感想を述べたりすると共に、学んだことを自分も取り入れていきたいと話されていました。

戸部先生の「保健教育は子供たちの自己実現を支える」という言葉は、養護教諭としてのやりがいを感じ、励みとなりました。「健康の木（子供たち自身）」を育てる土壌には、生活習慣・病気の予防・環境・メディアなどの保健教育という栄養があります。シンポジストの実践に共通することは、その土壌づくりを大切にしているという点でした。

子供たちの課題解決に向け、養護教諭が中核となって連携・共働して実践した保健教育は参加者にとっての財産にもなりました。コロナ禍でも養護教諭の資質向上のために、研究協議会を工夫して開催していただいたことに感謝しております。





地区だより（南那須地区）



那須烏市立荒川小学校 阿久津 季子
(元：那須烏山市立境小学校)

南那須地区は、小学校8校、中学校4校、県立学校3校の計16名の会員で構成されています。全体での研修は年2回行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全体での研修は残念ながら中止となりました。地区内では、感染症対策を行いながら、那須烏山市では年3回、那珂川町では年4回それぞれ研修・研究を行っています。

【那須烏山市】

那須烏山市では、例年第1回研修会を夏休みに1日開催していましたが、今年度はコロナ禍の影響で、授業日に半日のみの開催となりました。内容は感染症対策の情報交換が中心でしたが、「コロナ禍の健康診断はどう進めたらいいの?」「どんなものを購入しているの?」など、一人で抱え込みやすい不安や疑問を共有し解消する貴重な機会となりました。例年とは異なる特別な年だからこそ、改めて市内養護教諭のつながりに助けられ勇気づけられました。

第2回研修会では、感染症対策の情報共有をはじめ健康診断票の電算化に向けた話し合いや定期健康診断結果の統計処理などを中心に行いました。

第3回研修会では、今年度のまとめと次年度に向けた地域学校保健委員会について情報交換を行いました。

那須烏山市は、令和3年度の県の研修会で研究発表を行う予定のため、その準備も進めています。今まで本市で取り組んできた実践を改めて見直す良い機会となっています。今後も連携を取りやすいという少人数の強みを生かし、養護教諭同士のつながりを大切にしながら研鑽を積んでいきたいと思っています。



研修会の様子

【那珂川町】

那珂川町養護教諭部会は、小学校3校、中学校2校、高等学校1校の計6校の少人数の会です。例年、養護教諭研修会として、第1回目を7月頃に開催し、町学校保健統計のまとめや情報交換を行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策について、6月に臨時の研修会を開催しました。那珂川町教育委員会教育長様から御講話をいただいたり、学校教育課担当者と那珂川町のマニュアルに基づいた感染症対策や不足している物品について相談したりと、行政側と学校側との貴重な情報交換の場となりました。新型コロナウイルス感染症対策について今より



りもわからないことが多く、不安な毎日を送っていたため、大変ありがたい機会でした。また、各校の感染症対策について、消毒をするタイミングや不足している物品（アルコールや使い捨て手袋）の入手方法なども情報交換を行いました。また、児童生徒健康診断票記入のデジタル化が始まりました。実際に入力作業を行ってみると、入力項目がなかったり、印刷がずれてしまったり、戸惑う点が多くありましたが、研修会の折に疑問点を持ち寄り、全員で試行錯誤し、何とか入力することができました。



これからも少人数の地区の利点を生かし、養護教諭同士はもちろん、町教育委員会や町の子育て支援課とも連携し児童生徒の健康保持増進のために研究や研修を行っていききたいと思います。

役員退任にあたって

市貝町立市貝中学校（元：真岡市立真岡西小学校） 高津 朱美（副会長）

やってみないとわからない仕事はまだまだあると感じた6年間でした。研修会で配られる資料は役員の方々が休日にもかかわらず綴じ込みをしてくださっていたこと、研修会をよりよくするために話し合いが重ねられていたこと、会場予約や進行に至るまで運営にはたくさんの労力が投入されていたこと。何も知らずに、のほほんと研修に参加していたことを申し訳なく思いました。今まで本会を運営し、盛り上げてきてくださった先輩、養護教諭の方々に改めて感謝したい気持ちです。

任期期間中には、全国養護教諭連絡協議会の機関誌「瑞星」の編集にも関わらせていただきました。編集員として選ばれた向上心が豊富なパワフルな先生方と仕事をさせていただき、たくさん刺激を受けました。執筆される先生方とのやりとりでは、養護教諭として誇りとこだわりを持ち、熱心に執務に取り組む研究される姿に感心させられました。また、本県の先輩養護教諭の滝田寿枝先生の少女の絵画が「瑞星第11号」の表紙を飾ったことも忘れられません。

時期と縁が巡って副会長までやらせていただいたことは感謝するばかりです。任期中の6年間で少しでも会のために働けたとしたら、うれしく思います。今後は一会員として、養護教諭としての資質の向上に努め、学校になくってはならない保健室にしていきたいと思います。

退任にあたり、これまで一緒に仕事をさせていただいた本部役員の先生方に、心から感謝申し上げます。充実した時間をありがとうございました。最後に、本会のますますの発展を心からお祈りします。

佐野市立南中学校 山本 美奈子（副会長）

平成25年度に役員になり、この会のために労を惜しまず働く先生方に出会い、一緒に事務局の仕事をさせていただいたことは、とても貴重な経験になりました。また、本会が多くの先輩方のご尽力によって運営され、引き継がれてきたことを実感しました。

最初は、しろたえ編集を担当させていただきました。1期目は、分からないことばかりで先輩方に頼ってばかりでした。2期目には、これまでに発行された「しろたえ」が全て入ったケースを引継ぐとともに、しろたえ・慶弔費の会計も加わり、心まで重くなったことが昨日のこのように思い出されます。今では笑い話ですが、締め切りが近づくと「しろたえ」が頭から離れなくなり、夢にまで出てきました。しかし、完成したときの感動は一入でした。

退任を考えていたときに副会長のお話をいただき、当時の校長先生に相談したところ、「会員の皆さんのために働いてください」というご助言をいただきました。主に春・秋の研修会の計画・運営に携わりました。打合せに漏れはなかったか、予定どおりに進行するかと研修会が終わるまではいつも不安でした。また、栃木県総合文化センターの改修工事に伴い、会場が宇都宮市文化会館に変更されることになり、下見や研修会開催計画の練り直しなど大変なこともありました。が、それも良い経験だったと感じています。毎回、会場当番になった地区の先生方には、スムーズな運営のためにご協力いただき、とてもありがたく思いました。去年はコロナ禍で研修会が中止となり、普通に研修会が開催できることの幸せに気付きました。

退任にあたり、これまでお世話になった先生方に心より感謝申し上げます。本会のますますの発展と会員の皆様のご健康をお祈りしています。

日光市立日光小学校 丹治 佳子（理事・しろたえ担当）

いつもそう…。引き受けてから後悔する。「先生、来年度、県の役員を受けてくれないかな？」という言葉に、『私が断ったら、またこの先生は違う先生を探すことになる』と思いお引き受けした平成 28 年。翌年の平成 29 年度から令和 2 年度までの 4 年間、元号をまたぎ会の運営に携わらせていただきました。

役員の先生たちが集まる委員会では、みなさんのレベルの高い仕事ぶりに、ここは私のいる場所ではないと居心地が悪かったのを覚えています。「何で引き受けてしまったのか…」後悔しましたが、やがてメリットも多いことに気付きました。

県内各地の情報はもとより、知恵袋的な工夫やアイディア等をお聞きすることも多く、それらは大いに参考になり、自校の執務に取り入れ工夫改善をすることができました。特に、新型コロナウイルス感染症対策について、情報共有できたことは心強かったです。

私は主に「しろたえ編集」を担当し、先輩諸氏の歩んできた歴史の重みをひしひしと感じながら、編集に携わってきました。編集委員を拝命した初年度、編集の進め方や原稿依頼の仕方など、初めてのことで頭の中がパンクしていた私は、テキパキと編集委員に指示をして会議を仕切っていた先輩役員の先生方を、尊敬の眼差しで見っていました。そんな私が、後半の 2 年間はその役目を担うことに…。不安でしたが、46 号、47 号を発行することができホッとしました。ご協力いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、県の役員として会の運営に携わる機会をいただいたことに感謝するとともに、本会のますますの発展と会員の皆様のご健康を祈念し、退任のあいさつとさせていただきます。4 年間、本当にお世話になりました。

栃木市立東中学校（元：大平中学校） 渡辺 史江（理事・調査研究、レベルアップ担当）

平成 29 年度より 2 期 4 年間、本会で調査研究委員・レベルアップ研修会の担当をさせていただきました。初めて役員の皆様と仕事をした時は、何をしたらよいのか立ち尽くすばかりで私には荷が重く感じました。しかし、回を重ねるごとに先輩役員の皆様の的確・確実に仕事をこなしていく姿に尊敬の念を抱くようになり、私も本研究会に貢献できるよう努力をしたいと思うようになりました。とはいえ、振り返ると勤務校の仕事に追われ思うようにできなかったと反省することが多々ありました。このような 4 年間でしたが、本会の運営について学び、役員会や研修会に出席するたび、役員の皆様の学校保健に関するアンテナの高さや知識の豊富さに触れることができ、明日もがんばろうというやる気をいただきました。また、地区の方々との情報交換の場として、学校保健の動向をいち早く入手できることは、私にとって有意義な時間である貴重な経験でした。

担当した調査研究では、養護教諭が学校での様々な対応に悩み戸惑いを感じた時の手助けとなるような研究にしたいと熱意を持ち、役員と各地区の担当役員が一緒になり研究にあたりました。話し合いを重ね、一つのものにまとめ、しろたえに掲載された時の喜びは大きく、日々の執務の参考になればと願うと共に、自分自身の良い勉強の機会となったと感じました。

レベルアップ研修会はコロナ禍のため、令和 2 年度は中止となりましたが、いつかまた充実した研修会が再開できることを切に願っています。

最後になりましたが、これまでお世話になった方々に感謝申し上げるとともに、本会のますますの発展を心よりお祈りいたします。ありがとうございました。

宇都宮市立城山西小学校 金井 拓美（理事・調査研究）

本研究会の理事のお話をいただいた時、自分で本当にやっていけるのか、皆さんにご迷惑をおかけすることにならないかととても不安でしたが、平成 29 年より 2 期 4 年間、何とかここまでお仕事をさせていただきました。基本 1 校 1 人職である養護教諭が仲間と一緒に、資質の向上のため自分達の手で、自分達が必要としている研修会を作り上げ学んでいく大切さを実感しました。春と秋の研修会、夏のレベルアップ研修会では、自分達が必要としているからこそ、実りのある充実した研修になっており、その運営に関わらせていただいたことは、いつも受け身であった私にとって、貴重な経験でした。

また、4 年間、調査研究委員としてたくさんのことを学ばせていただきました。「養護教諭の在り方について…」「養護教諭のコーディネート力を高めるために…」日々の執務の中で、一人模索し悩んでいることを、先輩や若い先生方、学校規模や校種の違った先生方と一緒に研究を進めていくことは、さまざまな見方や考え方に触れ、幅広く深く学ばせていただく大変よい機会となりました。途中何度も迷い悩んだこともありましたが、同じ研究委員の先生方のお力と、先輩先生方のご指導のお陰で、しろたえの特集記事としてまとめ上げることが出来ました。

退任にあたり、これまでお世話になりました先生方に心より感謝申し上げ、本会のますますの発展を祈念いたします。



大変お世話になりました。
ありがとうございました。